

# 京都府公立中学校長協会会長賞

## 「視野を広げて」

南丹市立園部中学校 3年

田中 知里



私は、野球が大好きです。小学校二年生から元のクラブチームで始めました。チームメイトと一生懸命練習し、努力してつかみ取る勝利は、涙が出るほど嬉しかったです。この大好きな野球をずっと続けていきたい、そんな思いで中学校生活が始まりました。

私の中が校には、野球部があります。しかし、男子しか入れませんでした。そこで、私と母は、中学校に直接お願いをし、女子の入部を認めてもらえることになりました。しかし、母は入る前に私にこう言いました。

「女子だからやっぱ辛いことはある。それでも頑張って続けられるか。」と。

その時の私は、「大丈夫、大丈夫火。」と軽く考えていました。あれほど一緒に野球をしてきたチームメイトと一緒にだから、辛いことなんてないだろうと思って

いました。私は身長も高く、結構上手な方だったので、そのあたりの心配はあまりしていませんでした。しかし、中一・中二と学年があがっていくにつれ、だんだんと大きくなっていくチームメイト。私より小さかったのに、あつという間に背も抜かれていきました。同時に、私たちは思春期に入っていく、男子と女子という心の壁も出てきました。そんな時、一人の部員と少しけんかになってしまい、こんな言葉を言われました。

「女のくせに野球なんかできるわけないやろ」私はこの言葉で、心に大きな深い傷ができました。次第に自信がなくなっていく、私のいない所で悪口を言われているだろうと考えるようになってしまいました。あれほど好きだった野球をやりたいくないという思いまで出てきました。そこで気が付きました。母が言っていたのはこのことなんだと。だから私は、誰にも言えず、ためこんでためこんで、一人で我慢しました。でもどうとう耐え切れなくなり、初めて母に

「野球をしたくない。」そう言ってしまった。泣きじゃくる私を母は何も言わず、静かにそっと抱きしめてくれました。すごく温かく、優しくかったです。今までため込んできた苦しみや怒りを全て涙に代えて出しました。あれほど泣いたのは何年ぶりだっただろう。

そんな出来事があり、私は中二の夏を迎えました。野球部の顧問の先生からの声かけで私は京都府の女子野球の大会に参加しました。そこでは、他の中学校でも男子に混じって女子が頑張っていることを知りました。その中に一つ年上の女の子がいて、日頃悩んでいることなどを話すことも

できました。その女の子は私にこう言いました。「君と同じくらいの頃は、私も辛いと思うことがあった。でも今はとても楽しい。今、逃げ出したらそこで終わるよ。頑張って。」と。さらにこの大会に参加して気づいたことは、女子ばかりの野球チームより、男子に混じって野球をする方の中には、楽しいと感じたことです。これは私にとって大きな発見でした。視野を広げてみて多くの経験をするものの見方が変わるものだなと実感しました。

そして三年生の先輩が引退し、私たちが野球部を引っ張っていくことになりました。女子野球に参加したこともあつて、私の中で少しずつ何かが変わってきていました。頑張れば、女の私でも通用する、そう思えば、少しぐらいの悪口も気にならなくなりました。そして時間がたつにつれ、周りのみんなも変わっていく、男子との仲もだんだん良くなっていきました。また、小学校の頃のように仲間と共に野球ができるという喜びに変わっていきました。

人は誰しも「今」が辛いとそこから逃げ出したくなります。ここまで野球を続けてきて学んだことは、辛いことがあつても何事も最後までやり抜くことの大切さと、視野を広げて見方を変えてみることの大切さです。私は、これから先どんな辛いことがあつても、逃げ出さずに頑張っていくたい。その先に、新しい道が広がっていることを信じて。